

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-69911

(P2010-69911A)

(43) 公開日 平成22年4月2日(2010.4.2)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 2 B 5/00 (2006.01)	B 6 2 B 5/00 L	3 D 0 5 0
B 6 2 B 3/00 (2006.01)	B 6 2 B 3/00 F	

審査請求 有 請求項の数 2 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2008-236372 (P2008-236372)	(71) 出願人	500551677
(22) 出願日	平成20年9月16日 (2008.9.16)		株式会社島製作所
			大阪府大阪市東住吉区桑津4丁目3番9号
		(74) 代理人	100076406
			弁理士 杉本 勝徳
		(72) 発明者	島 龍彦
			大阪府大阪市東住吉区桑津4丁目3番9号
			株式会社島製作所内
		Fターム(参考)	3D050 AA02 AA03 BB10 DD02 EE08
			EE15 JJ03 JJ07 KK15

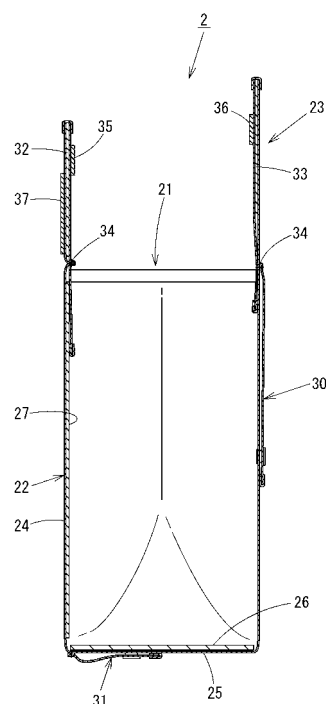
(54) 【発明の名称】 手押し車用バッグ

(57) 【要約】

【課題】 収納する物品の大きさに対応してその形態が変化させることができる手押し車用バッグを提供できるようにする。

【解決手段】 手押しハンドルを備えたフレームに装着して使用される手押し車用のバッグであって、上端が開口する収納部本体と、収納部本体の上端開口部を開閉可能に蓋する蓋体とからなり、収納部本体は、可撓性シート材で角型に形成され、少なくとも収納部本体の外周面の1部には手押し車のフレームへの装着部が設けられるとともに、蓋体は可撓性シート材からなる第一フラップおよび第二フラップとをその基端を角型の上端開口部の対辺に取り付け、当該取り付け部乃至その近傍部分を回動中心として開口部を前記蓋体で開閉揺動可能にし、蓋体を開いた状態で対面する第一フラップと第二フラップとが対面する面、及び蓋体を閉じた状態で下方に位置するフラップの上面とに面ファスナーを設けた。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

手押しハンドルを備えたフレームに装着して使用される手押し車用のバッグであって、上端が開口する収納部本体と、収納部本体の上端開口部を開閉可能に蓋する蓋体とからなり、収納部本体は、可撓性シート材で角型に形成され、少なくとも収納本体の外周面の 1 部には手押し車のフレームへの装着部が設けられるとともに、蓋体は可撓性シート材からなる第一フラップおよび第二フラップとをその基端を角型の上端開口部の対辺に取り付け、当該取り付け部乃至その近傍部分を回動中心として開口部を前記蓋体で開閉揺動可能にし、蓋体を開いた状態で対面する第一フラップと第二フラップとが対面する面、及び蓋体を閉じた状態で下方に位置するフラップの上面とに面ファスナーを設けたことを特徴とする手押し車用バッグ。

10

【請求項 2】

収納部本体の少なくとも内面部分に水密性を有する層および / または断熱性を有する層が形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の手押し車用バッグ。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は障害者や高齢者が使用する手押し車に装着して使用される手押し車用バッグに関するものである。

【背景技術】

20

【0002】

自立歩行が困難か、自立歩行に支障がある障害者や高齢者が散歩や買い物をする場合、歩行するときの補助として手押し車が使用される。

たとえば、高齢者が自立して生活するためにスーパーマーケット等に出向き、食料品等を買って生活する場合にも手押し車が使用される。

【0003】

こうしたスーパーマーケット等での買い物では、食料品やその他の日用雑貨等、買い求めた商品の種類や量ならびに形態はそのつど異なるものである。

日々の買い物では、ティッシュペーパーや衣類だけの日もあれば食料品を購入するときだけの時もあり、食料品でもチルド冷蔵や冷凍保存商品のようにパック入りの小型のものもあれば、大根あるいはネギや牛蒡のように丈の長いものもある。

30

【0004】

そこで、こうしたでは日々の買い物の中でたとえば、チルド冷蔵や冷凍保存商品を購入して帰るときに、購入した食料品の適温を維持した状態で家庭に持ちけることができるようにするために、本出願人は特許文献 1 に示すように保温性と水密性を有する手押し車に付設して使用される手押し車用バッグを先に提案している。

【0005】

ところが、こうした先の提案の手押し車用バッグでは、上記した大根あるいはネギや牛蒡のように丈の長いものや、買い物の量や形状に対応することができないという問題があった。

40

【特許文献 1】特開 2007 - 217013 号公報**【発明の開示】****【発明が解決しようとする課題】****【0006】**

本発明は上記問題点に鑑み提案されたもので、収納する物品の大きさに対応してその形態を変化させることができる手押し車用バッグを提供できるようにすることを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】**【0007】**

上記目的を達成するために、本発明にかかる手押し車用バッグは、手押しハンドルを備

50

えたフレームに装着して使用される手押し車用のバッグであって、上端が開口する収納部本体と、収納部本体の上端開口部を開閉可能に蓋する蓋体とからなり、収納部本体は、可撓性シート材で角型に形成され、少なくとも収納本体の外周面の１部には手押し車のフレームへの装着部が設けられるとともに、蓋体は可撓性シート材からなる第一フラップおよび第二フラップとをその基端を角型の上端開口部の対辺に取り付け、当該取り付け部乃至その近傍部分を回動中心として開口部を前記蓋体で開閉揺動可能にし、蓋体を開いた状態で対面する第一フラップと第二フラップとが対面する面、及び蓋体を閉じた状態で下方に位置するフラップの上面とに面ファスナーを設けたことを最も主要な特徴とするものである。

【０００８】

10

また、本発明にかかる手押し車用バッグでは、収納部本体の少なくとも内面部分に水密性を有する層および／または断熱性を有する層が形成されていることも特徴とするものである。

【発明の効果】

【０００９】

本発明の手押し車用バッグは、当該バッグを手押し車のフレームに取り付けた状態で使用する。

この手押し車を押して買い物をするとき、買った物の嵩が低い場合、蓋体の対面する第一フラップと第二フラップとをあわせた状態にして面ファスナーで固定した後、たとえば収納部本体を止めつけているフレームとは逆の方向に蓋体を折り曲げると、手押し車用バッグは側面視で三角形になり、嵩が低い買い物は収納部本体に収納される。

20

【００１０】

次に、衣類やティッシュペーパーのたとえば複数個を一まとめにしたような嵩張る買い物を収納する場合、当該嵩張る買い物を収納部本体に収納した後、第一フラップと第二フラップとを収納部本体の開口部の上部で上下に合わせた状態にしてこれを面ファスナーで固定する。すると、手押し車用バッグはその形状は内容積の大きな直方体の箱状になり、嵩張る買い物は箱状の大きな収納部本体に収納することができる。

【００１１】

そして、例えば上記したような大根あるいはネギや牛蒡のように丈の長いものを収納する場合、第一フラップと第二フラップとが対面する状態に立てて収納部本体の開口部を開放した状態にすると、当該丈の長いものでもゆったりと収納することができるので、１つの手押し車用バッグで、収納部本体に収納されるものの形状に合わせてその形態を変更することができる。

30

これにより障害者や高齢者にも扱いやすい有用な手押し車用バッグを提供することができる利点がある。

【００１２】

また、収納部本体の少なくとも内面部分に水密性を有する層および／または断熱性を有する層が形成されているものでは、上記効果に加えて、チルド冷蔵や冷凍保存された商品の収納にも一層至便なものにすることができる利点もある。

【発明を実施するための最良の形態】

40

【００１３】

以下、本発明の手押し車用バッグにかかる最も好ましい実施の形態を図面に基づいて説明する。

図１は本発明にかかる手押し車用バッグを装着した手押し車を示し、図中符号１はこの手押し車を全体的に、示し、符号２は手押し車用バッグを、図中符号３は手押し車１のフレームを全体的に示し、この手押し車１は、歩行の補助ならびに休息用の椅子をかねるものとなっている。

【００１４】

手押し車１のフレーム３は、平面視において角Ｕ字型をしたハンドル４と、ハンドル４から垂下した左右のハンドルポスト５に前輪６用の前側フレーム７と後輪８用の後側フレ

50

ーム 9 とを折畳み用リンク 10 を介して取り付けであり、後輪 8 用の後側フレーム 9 の上部には跳ね上げ可能な座部 11 を設けて構成されている。

この手押し車 1 のフレーム 3 は図外のロックレバーを操作することにより、手押し車 1 の使用形態からハンドル 4 の位置が下がり、折畳み用リンク 10 を解して前後の車輪 6・8 が近接した折畳み形態に折畳まれるようになっている。

【0015】

なお、本例を説明するにあたり、手押し車 1 の前後・左右とは、角 U 字型をしたハンドル 4 を握って障害者や高齢者が手押しして進む方向（図 1 上左方向）を前側とし、ハンドル 4 を握る手に合わせて左右方向とする。

【0016】

上記座部 11 は、左右の各ハンドルポスト 5・5 を昇降し、前側フレーム 7 と後側フレーム 9 とを枢支する昇降部材 12・12 間に掛け渡された横棧 13 に基端部が枢支され、この横棧 13 に基端部が枢支された部分を回転中心として跳ね上げられた歩行位置と水平の着座位置（図 1 の状態）とに揺動可能になっている。

そして、座部 11 の着座位置では座部 11 の側縁部から突出する当接片 14 が、後側フレーム 9 の上端側水平折り曲げ部分 15 に設けられた受け部 16 に当接して着座位置が保持されるようになっている。

【0017】

また、ハンドル 4 にはその左右のグリップ 17 の下方にブレーキレバー 18 が設けられており、図 1 の中立位置からブレーキレバー 18 を上に引き上げるとリリースワイヤ 19 を介して制動片 20 が後輪 8 に当接し、後輪 8 にブレーキがかかる。

ブレーキレバー 18 を中立位置から下方に押し下げて保持させると、リリースワイヤ 19 を介して制動片 20 が後輪 8 に強く当接乃至食い込んで後輪 8 をロックするようになっている。

【0018】

本発明のかかる上記手押し車用バッグ 2 は、図 2 及び図 3 に示すように、上端に開口部 21 を有する収納部本体 22 と、収納部本体 22 の上端開口部 21 を開閉可能に蓋する蓋体 23 とからなる。

収納部本体 22 は、内面側となる面を防水樹脂を塗布し、表面となる面に化粧を施した可撓性シート材で有底角筒型に形成され、その底部 25 には発泡スチロール製薄板状の保形部材 26 が配設されており、前面となる内面部分には保護用薄板 27 が設けられている。

そして、収納部本体 22 のハンドルポスト 5 側の外周面部分、底部 25 の前側の外周面部分のそれぞれには、手押し車 1 のフレーム 3 を形成する前側フレーム 7 の左右に掛け渡された上下一対のバッグ取付け用横棧 28・29（図 1 参照）に取り付けられる装着部 30・31 が設けてある。

ちなみに、上記装着部 30・31 はフレーム 3 の構造や形状により一方のみにすることができる。

【0019】

収納部本体 22 の上端開口部 21 に配設される上記蓋体 23 は、収納部本体 22 を形成したのと同じ素材の可撓性シート材からなる第一フラップ 32 と第二フラップ 33 をその基端が角型の前記開口部 21 の対辺に取り付けられて形成されており、この取り付け部分 34 を回転中心として上端開口部 21 を開閉揺動可能にしてある。

尚、この各フラップ 32・33 の基端部の取り付け部分 34 の位置は上端開口部 21 の上端部分もしくはその近傍であればよく、特に図に示したものに限定されるものではない。

また、第一フラップ 32 および第二フラップ 33 には、蓋体 23 を開いた図 2 及び図 3 に示す状態で第一フラップ 32 と第二フラップ 33 とが対面する面、及び後述する図 5 に示すように蓋体 23 を閉じた状態で下方に位置するフラップの上面とにそれぞれ面ファスナー 35・36・37 を設けてある。

10

20

30

40

50

【 0 0 2 0 】

上記のように構成された手押し車用バッグ 2 を使用する手順を次に説明する。

先ず、収納部本体の外周面に形成された装着部 3 0 ・ 3 1 を前側フレーム 7 の横棧部分 2 8 ・ 2 9 に装着して手押し車用バッグ 2 を取り付ける。

次に、手押し車用バッグ 2 を取り付けた手押し車 1 を押して買い物をするとき、その買い物の嵩が低い小物の場合、その小物を収納部本体 2 2 に収納した後、蓋体 2 3 を開いた状態で対面する第一フラップ 3 2 と第二フラップ 3 3 とをあわせた状態にして両者を面ファスナー 3 5 ・ 3 6 で固定する。

【 0 0 2 1 】

しかる後、第一フラップ 3 2 と第二フラップ 3 3 とをあわせて固定された蓋体 2 3 を、
収納部本体 2 2 を止めつけているバッグ取り付け用フレーム 2 8 ・ 2 9 とは逆の方向（前
方向）折り曲げると、手押し車用バッグ 2 は図 1 及び図 4 に示すように側面視で三角形に
なり、嵩の低い買い物が収納部本体 2 2 内に収納される。

かくして収納部本体 2 2 に収納された買い物は収納部本体 2 2 の内方の前面部分に配設
した保護用薄板 2 7 で前方からの他物の接触によるダメージから保護される。

【 0 0 2 2 】

次に、買い物が、衣類やティッシュペーパーのたとえば複数個を一まとめにしたような嵩
張るものである場合、蓋体 2 3 を大きく開いて当該嵩張る買い物を収納部本体 2 2 に収納
した後、図 5 に示すように第一フラップ 3 2 と第二フラップ 3 3 とを収納部本体 2 2 の上
端開口部 2 1 の上部で上下に合わせた状態にしてこれを面ファスナー 3 5 ・ 3 7 を合わせ
て固定する。

すると、手押し車用バッグ 2 の収納部本体 2 2 の形状は内容積の大きな直方体形状にな
り、嵩張る買い物はこの箱状の大きな収納部本体 2 2 に収納することができる。

【 0 0 2 3 】

そして、買い物が、例えば大根や牛蒡、あるいはネギ等のように丈の長いものを収納す
る場合、図 2 及び図 3 に示すように第一フラップ 3 2 と第二フラップ 3 3 とが対面する状
態に立てて収納部本体の開口部を開放した状態にすると、その開放された上端開口部 2 1
から当該丈の長いものを差し込んでゆったりと収納することができる。

【 0 0 2 4 】

尚、図示は省略したが収納部本体 2 2 の少なくとも内面部分に水密性を有する層や断熱
性を有する層を形成すると、手押し車用バッグ 2 をチルド冷蔵や冷凍保存された商品の収
納するのに一層至便なものにすることができる。

水密性層は合成樹脂を塗布したり、合成樹脂シートで収納部本体 2 2 を形成する場合、
隅部を溶着したりすることによっても形成することができる。

また、収納部本体 2 2 の内面部分に断熱性層を形成するには、発泡スチロール等の断熱
性を有する板材を収納部本体 2 2 の内面部分に貼着し、または、単に配置するだけでも簡
単に形成することができる。

【 0 0 2 5 】

さらに、上記実施の形態では、手押し車 1 のフレーム 3 が折畳み可能になっているが、
折畳み不能のものであってもよく、さらに座部 1 1 のない手押し車 1 にも本発明の手押し
車用バッグ 2 を実施することができるのはいうまでもないことである。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 2 6 】

【 図 1 】は本発明にかかる手押し車用バッグを装着した手押し車の斜視図である。

【 図 2 】は本発明にかかる手押し車用バッグの上端開口部を開いた状態の斜視図である。

【 図 3 】は本発明にかかる手押し車用バッグの上端開口部を開いた状態の中央部分を縦断
した側面図ある。

【 図 4 】は本発明にかかる手押し車用バッグの上端開口部を閉じて使用する状態の斜視図
である。

【 図 5 】は本発明にかかる手押し車用バッグの上端開口部を閉じて使用する別の形態の斜

10

20

30

40

50

視図である。

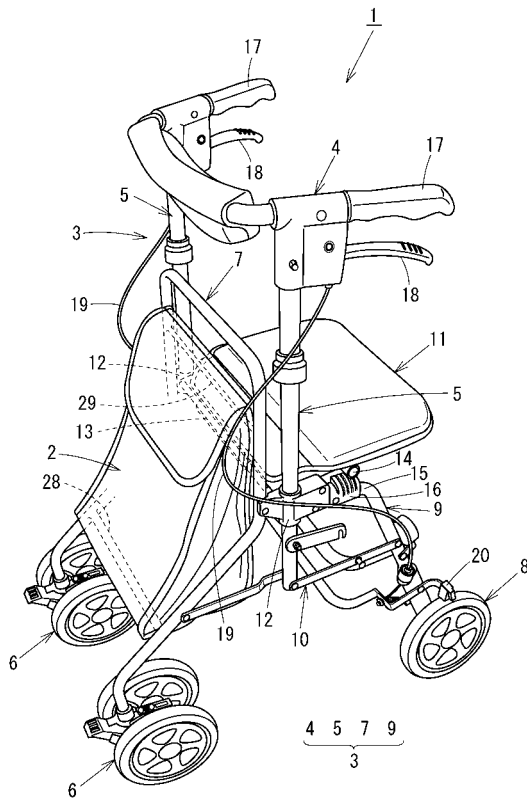
【符号の説明】

【0027】

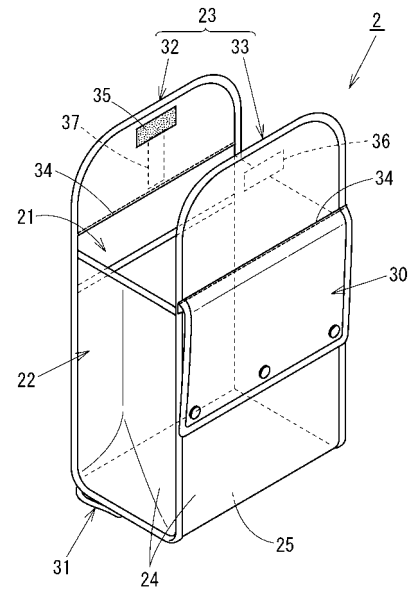
- 1・・・手押し車
- 2・・・手押し車用バッグ
- 3・・・フレーム
- 4・・・ハンドル
- 21・・・上端開口部
- 22・・・収納部本体
- 23・・・蓋体
- 24・・・可撓性シート
- 32・・・第一フラップ
- 33・・・第二フラップ
- 35・36・37・・・面ファスナー

10

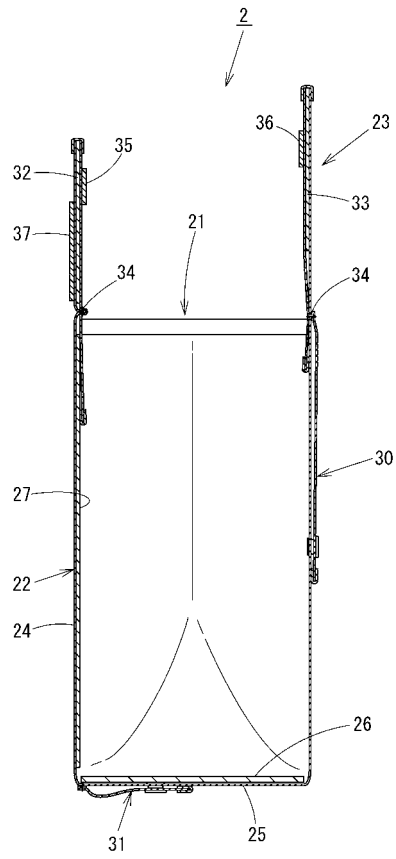
【図1】



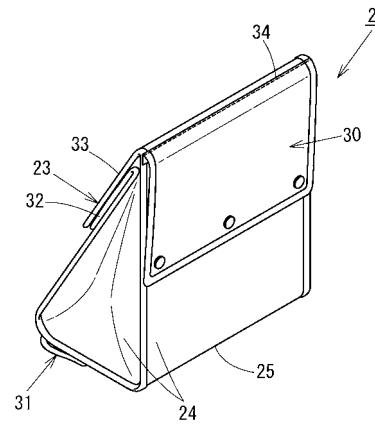
【図2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

